

平成二十五年度の話題

有島記念館若手作家展Ⅰ

「再会—reunion」の開催

有島記念館開館二十五周年・有島武郎青少年公募絵画展二十五周年を記念し、企画展「有島記念館若手作家展Ⅰ reunion」（平成二十五年七月一日～平成二十五年九月二十九日）を開催しました。当館では、平成元年より「有島武郎青少年公募絵画展」（ニセコ町・北海道新聞社主催）を開催しています。この公募展は、北海道内の中高生の絵画活動の発表の場を提供し、本年度で二十五回目を迎えました。そして、過去の出品者の中からは、近年、絵画、インスタレーション、写真、映像などの分野で目覚ましい活動を見せている若手作家が誕生してきています。

本展では、その中から八人の若手作家に焦点を当て、公募絵画展出品以降から現在に至る活動を72点の作品を通して紹介したものです。本展開催期間中には、出品作家によるワークショップ、ライブペイントの催しも開催したほか、出品作品の図版や作家が有島武郎青少年公募絵画展の思い出をつづった文章などを掲載した図録を刊行しました。

有島記念館では、今後も有島武郎が持

っていた美術振興の精神を継承していくためにも、若手作家を中心とした作品展の開催を企画していきます。

「出品作家」

河野 健氏（第一、二回）

新見垂矢子氏（第六―八回）

會田 千夏氏（第七―十回）

松崎 祐哉氏（第八―十三回）

佐藤 仁敬氏（第九、十回）

浜地 彩氏（第九、十回）

林 こずえ氏（第十三、十四回）

加藤 翠氏（第十七―二十一回）

※カッコ内は有島武郎青少年公募絵画展出品回

ニセコ郷土史の掘り起こし事業

有島記念館は、作家・有島武郎を顕彰する文学館としての役割のほか、町内唯一の博物館施設として、ニセコ町の歴史に関する資料を収集する「地域住民のための記憶装置」としての役割も担っています。

「マチノキオク―ニセコ町の歴史Vol.1」（平成二十五年四月二十七日～平成二十五年六月十六日）では、近年、町民の方から寄贈いただいた農具などを紹介し、農作業が機械化される以前の農業の営みを紹介しました。同時に、ニセコ町内の町並みの過去と現在の写真を定点比較することで、街の移り変わりや発展の様子を振り返りました。

近年、日本各地では「鉄道遺産」の再評価と保存活動に光が当てられています。ニセコ町にも「旧新得機関区転車台」「簡易軌道跡」などの鉄道遺産があります。このような鉄道遺産に光を当て

もくじ

1

平成25年度の話題

2・3

平成25年度
活動報告

4

平成25年度
資料収蔵報告

5

学芸部門活動報告
書籍紹介
ニュース

6

事務室だより
職員動向



「再会展」展示室内の様子



ニセコ駅周辺鉄道遺産現地見学会の様子

平成二十五年度活動報告

一、展示事業

(一) 常設展示室

来場者数

四五一一人

〔平成二十四年一月一日～平成二十四年三月三十一日〕

〔平成二十五年四月一日～平成二十六年三月三十一日〕

七、四二九人

〔平成二十五年四月一日～平成二十六年三月三十一日〕

(二) 特別展示室

有島武郎・有島生馬・木田金次郎絵画展

期間 平成二十五年四月二十七日～平成二十五年六月十六日

マチノキオクーニセコ町の歴史Vol.1

期間 平成二十五年四月二十七日～平成二十五年六月十六日

有島記念館若手作家展I

〔再会―reunion〕

期間 平成二十五年七月一日～平成二十五年九月二十九日

第二十五回有島武郎青少年公募絵画展

期間 平成二十五年十月十九日～平成二十五年十一月四日

応募点数 二百七十二点

入賞・入選点数 百三十点

有島武郎賞

〔秋刀魚〕川岸優果

(北海道岩見沢緑陵高等学校二年)



有島武郎賞「秋刀魚」川岸優果

藤倉英幸特別展

「静かな風を聴きながら」

ニセコ展「めぐる季節に旅をして」

期間 平成二十五年十一月二十八日～平成二十六年一月十三日

※俱知安町・小川原脩記念美術館と同

時間開催 俱知安展「北海道24景」



「藤倉英幸特別展」展示室内の様子

(三) 常設展示室内小部屋(二階)

第十一回しりべしミュージアムロード

共同展「人生いろいろ」

期間 平成二十五年七月十九日～平成二十五年八月十八日

(四) 小ギャラリー

二〇一三年度ニセコ町鉄道遺産振興事業 大崎和男鉄道写真展「峠」

期間 平成二十五年十月五日～平成二十六年二月二日

(五) 館外における主催展示事業

「藤倉英幸作品展

「静かな風を聴きながら」

期間 平成二十五年十月十二日～平成二十五年十月二十七日

会場 JRタワープラニスホール (札幌市)

二、普及事業

※敬称略

星座忌(共催事業)

日時 平成二十五年八月八日十三時開始

参加者 三十五人

主催 土の香の会

星座忌特別講演「相互扶助とユートピアー有島武郎と現代社会」(共催事業)

日時 平成二十五年八月八日十三時開始

講師 中村三春(北海道大学大学院文学研究科教授)

参加者 三十五人

主催 土の香の会

加藤翠ワークショップ

「二日限定★アクリルペイント講座」

日時 平成二十五年七月二十日十三時開始

講師 加藤 翠(アーティスト)

参加者 八人



アクリル絵具で板に描く参加者

林こずえワークショップ

「みんなで作ろう☆版画カーテン」

日時 平成二十五年八月十一日十二時開始

講師 林こずえ(アーティスト)

参加者 二十五人



版画カーテン

公開制作「浜地彩ライブペインティング
グー宇宙」

日時 平成二十五年八月二十五日九時

開始

出演 浜地 彩(アーティスト)

参加者 六十人



制作途中の浜地さん

第二十五回有島武郎青少年公募絵画展
表彰式

日時 平成二十五年十一月二日十三時

開始

講評 吉田豪介(美術評論家)

参加者 百五十一人



上位六賞受賞者との記念撮影

記念館学芸調査員、伊藤大介(有島
記念館学芸員)

参加者 二十人



自らの作品について語る大崎さん

能登谷安紀子ヴァイオリニスタ
日時 平成二十五年十一月十日十四時

開始

出演 能登谷安紀子(ヴァイオリニス
ト)、碓井俊樹(ピアニスト)

参加者 六十人



能登谷さん(左)と碓井さん(右)

場所 特別展示室(有島アートギャラ
リー)

講師 藤倉英幸(イラストレーター)

参加者 二十一人



自作を前にして語る藤倉さん

土田英順 東日本大震災チャリティー
コンサート

日時 平成二十五年十二月十四日十三

時開始

出演 土田英順(チェリスト)、鳥居

はゆき(ピアニスト)

参加者 三十八人



土田さん(右)と鳥居さん(左)

野瀬栄進ジャズピアノコンサート

日時 平成二十五年十月二十六日十三

時開始

出演 野瀬栄進(ジャズ・ピアニスト)

参加者 五十七人



演奏の合間にトークで会場を盛り上げる
野瀬さん

ニセコ町鉄道遺産現地見学会「旧新得
機関区転車台と簡易軌道跡を巡る」

日時 平成二十五年十一月四日十二時

半開始

場所 ニセコ駅構内転写台周辺

講師 大崎和男(アーティスト、旧新

得機関区乗務員)、持田誠(帯広百年

記念館学芸調査員)、伊藤大介(有島

記念館学芸員)

参加者 四十人

大崎和男講演会「ニセコと十勝を結ぶ
鉄道遺産、そしてアート」

日時 平成二十五年十一月四日十三時

四十五分開始

講師 大崎和男(アーティスト、旧新

得機関区乗務員)、持田誠(帯広百年

藤倉英幸ギャラリートーク「作家と巡
る北海道風景」

日時 平成二十五年十二月七日十四時

開始

朗読と音楽の調べ

日時 平成二十六年一月十一日十三時

開始

出演 田村英一（HBCアナウンサー）、

明楽みゆき（チェンバロ奏者）

参加者 五十三人

朗読作品・有島武郎「カインの末裔」、

三浦綾子「塩狩峠」ほか

チェンバロ演奏曲・カッチーニ作曲

「アヴェ・マリア」、ヘンデル作曲

「パッサカリア」、山田耕筰作曲「こ

の道」ほか



田村さん(右)と明楽さん(左)

宮山登山会

日時 平成二十六年三月二十一日九時半

開始

場所 有島

記念館及び

宮山周辺

参加者

十三人



宮山山頂での参加者のみなさん

三、マスコミへの露出

(一) 新聞報道

○「有島記念館に蘭越の木工品」

平成二十五年八月九日北海道新聞朝刊

「小樽・後志」

○「鮮やか版画 並べてカーテン ニセコ

でイベント 羊蹄山望む窓際に100枚」

平成二十五年八月十三日北海道新聞朝

刊「小樽・後志」

○「ぶらり街角 ニセコを歩く 有島武

郎と農場」

平成二十五年八月二十三日北海道新聞

朝刊「小樽・後志」

○「有島武郎青少年公募絵画展を審査して」

平成二十五年十月十七日北海道新聞朝

刊「全道」

○「転車台や線路跡 鉄道遺産を巡ろう

ニセコで4日 見学会と講演」

平成二十五年十一月二日北海道新聞朝

刊「小樽・後志」

○「元機関士の鉄道写真展 ニセコ、有

島記念館で」

平成二十五年十一月八日讀賣新聞朝刊

「小樽・後志」

○「パイオリン清らかに ニセコ 能登

谷さんが演奏会」

平成二十五年十一月十二日北海道新聞

朝刊「小樽・後志」

○「貼り絵の風景 表情豊か 俱知安・

ニセコ 藤倉さん作品展」

平成二十五年十一月二十九日北海道新

聞朝刊「小樽・後志」

○アート探訪「雪の終着駅」

平成二十五年十二月十六日、北海道新

聞朝刊文化面

○「ニセコと俱知安で「藤倉英幸展」初

の2館同時開催」

平成二十五年十二月第三週後志よみう

り

○「ニセコ舞台の有島作品「カインの末

裔」小説の雪景色 追体験」

平成二十六年一月十一日北海道新聞朝

刊「小樽・後志」

○「カインの末裔朗読会」

平成二十六年一月十三日北海道新聞朝

刊「小樽・後志」

○「カインの末裔」有島記念館が出版」

平成二十六年一月十五日北海道新聞朝

刊「全道」

(二) ラジオ報道

○平成二十五年四月より第二、第四水曜

日「有島記念館の時間」ラジオニセコ

(三) その他

○「広報ニセコ」連載「こんにちには有島

記念館です」平成二十五年五、七、九

十一月号

平成二十五年資料収蔵報告

(一) 寄 贈

○吉田繁三様(ニセコ町)より

「農機具」二点

○宮谷さく様(岩内町)より

「有島生馬書簡」一式

○寺岡テイチ様(札幌市)より

図書「有島武郎著「或女」(復刻版)

上下」ほか計四点

○春日井雅子様(ニセコ町)より

図書「ニセコ 光の印象」一点

○清水敏行様(ニセコ町)より

「スキー場関連ポスター」一式

○折内光洋様(ニセコ町)より

「SLニセコ号キーホルダー」一点

○川埜亜紀子様(ニセコ町)より

「ニセコ町関連観光ポスター・チラシ」

一式

○蛸屋公司様(札幌市)より

図書「有島武郎とその農場・農団」五

十点

○内田真木様(茨城県)より

「狩太共生農団信用利用組合庶務規則

等」四点、「有島農場図面」六点

○馬場民準様(東京都)より

「曾我一族関係写真データ」四点

○兄嶋俊郎様(東京都)より

「有島生馬書幅」二点

○安田 勉様(旭川市)より

「神尾光臣書」二点

この他、全国の文学館、美術館をはじめとする博物館施設や個人から、図録、年報、歌集など多くの資料寄贈を受けました。紙幅の都合上、本欄では割愛致しますが、厚く御礼申し上げます。

(二) 購 入

○有島武郎書幅「爾自身を知れ」

以上の寄贈・購入資料については、適切な保存処理や資料自体の調査終了後、閲覧・公開に供します(一部、プライバシーに関わる資料に関しては、この限りではありません)。一部資料の詳細は、次号以降の館報「収蔵資料紹介」欄にて紹介する予定です。

学芸部門活動報告

資料の保存については、平成二十四年度より継続している図書資料、逐次刊行物（雑誌資料）、特別資料（書画、愛蔵品、有島農場関連資料など）の登録作業を進めるとともに、収蔵庫内の燻蒸作業を行いました。燻蒸実施期間中「平成二十五年六月十七日から同月二十日」は臨時休館し、カビや害虫などを滅殺処理しました。「施工業者：北海道防疫燻蒸」。

また、内藤表具工房（旭川市）・内藤英治氏の協力の下、当館所蔵の書幅等の状態を確認し、仕立て直しが必要なものについてのリストアップを行いました。それを元に、平成二十六年度、一部資料の仕立て直しを行います。

調査・研究活動については、平成二十三、二十四年度に受贈・購入した資料に関する調査、企画展実施に関する調査・研究などを実施しました。それらの成果のうち、論文等については以下の通りです（学芸員 伊藤大介）。

○伊藤大介「わが館 自慢の一品「農場解放記念碑文」」

平成二十五年十月八日北海道新聞朝刊

「小樽・後志」

○伊藤大介「アート探訪「雪の終着駅」」

平成二十五年十二月十六日、北海道新聞朝刊文化面

○伊藤大介「近年収蔵の有島武郎関連資料について」

平成二十六年三月発行、全国文学館協議会紀要第七号

書籍紹介

有島武郎著「有島武郎ニセコ三部作（有島記念館文庫1）」定価八〇〇円十税二〇一四年発行 発行：有島記念館

当館では、有島武郎の絶版作品やニセコ町の歴史を扱う「有島記念館文庫」を創刊しました。その第一弾は、「有島武郎ニセコ三部作」と題して、ニセコゆかりの「カインの末裔」「親子」「秋」の三作品を収録しています。本書は、当館ミュージアムショップでの販売のほか、遠くにお住まいの方は通信販売での購入も可能です。詳細は当館までお問合せください。



ニュース

・有島武郎青少年公募絵画展審査員の退任

平成元年より、有島武郎青少年公募絵画展の審査を担当してきた野本醇氏（画家）、竹岡羊子氏（画家）、吉田豪介氏（美術評論家）の三氏が、今年度の審査を最後に退任されました。長きに渡り本絵画展の発展にご尽力を賜りました野本氏、竹岡氏、吉田氏に感謝申し上げます。



右より野本さん、竹岡さん、吉田さん

・ミュージアムショップの充実

当館ミュージアムショップでは、従来から有島武郎関連の書籍などを販売しています。それらに加えて、平成二十五年度から、ニセコ産米粉を使ったボーロ「有島農場」（ニセコ町・味楽屋ゆきや）、ブックスタンドなどの木工製品（蘭越町・湯ノ里デスク）、有島武郎が愛用した原稿用紙の復刻版（東京都・文房堂）の販売を始め、お客様にご満足頂いています。



ミュージアムショップの様子

また、当館オリジナル商品として、貼り絵画家・藤倉英幸先生による絵がきを発売しました。有島記念館が描かれた「有島に吹く風」、有島武郎の小説にも登場する坂道から羊蹄山を眺めた「羊蹄へ続く道」の二種類の絵柄となっています。価格は、各一〇〇円（税込）で好評発売中です。



有島に吹く風

・小ギャラリーの開設

従来、企画展は「特別展示室」、常設展示室内「小部屋」にて開催していましたが、今年度から、新たな展示スペースとして「小ギャラリー」を創設しました。そして、第一弾展示として「大崎和男鉄道写真展」を開催しました。今後も、地域の歴史紹介など幅広い展示に使用していく予定です。



「大崎和男鉄道写真展」が開かれた小ギャラリー

「事務室だより」

初仕事、緊張しつつお迎えした来館者は、地元のグループホームの方々だった。4月から6月の企画展示「有島武郎・有島生馬・木田金次郎絵画展」そして「マチノキオク展」。ギャラリーでは木製の農機具たちが肩寄せ合い、絵画や『狩太町』の白黒写真を見上げていた。

「これ、『唐箕』、手で(ハンドル部を)廻して、もう片手にも仕事(穀物を投入するなど)があるから大変だ。今ならなんでも良くなった、脱穀でも何でも電気だもん」

5月より勤務し古民具の知識もない私に、期間中、来館した方々は色々なことを教えてくれた。

忘れな草の盛り、公園(前庭)を囲むように活きいきと、淡い紫が光を浴びて輝いていた。

記念館の壁をいろどる蔦は、もう緑濃くあった。短かな夏から秋へと、数々のイベントや特別展示が催された。有島武郎の軌跡をなぞる「青春とは何だ!」展、若きアーティストが集う「reunion」展、「再会」展、彼等が過去活躍した舞台、今また才能のあまた芽吹く「青少年公募絵画展」。

そんな熱情に炙られるかのように、蔦もじりじりと色変わっていった。

青少年公募絵画展の開催中、記念館の外壁を見て「燃えてる」と表現した娘さんと、「縁起悪い」とたしなめたお祖母さんの二人連れがあった。

「賞入らなかつたけど、前のも(reunion展) 見に来たんで」

「あんなのに(作家として)呼ばれたら良いな、私が生きてるうちにな」と冗談をいうお祖母さんに、娘さんが「そっちが縁起悪い!」と返し、私達や他の来館者の方まで笑わせた。娘さんは美術部で油絵を、独学で写真を、勉強しているとのこと。デジタルカメラを覗かせてくれた。撮りかたが上手なのか、若い感性の

技なのか、日ごろ見慣れた館周辺のあれこれも全く別の存在感で写っていた。白壁に這いのぼった紅赤色の蔦葉は、本当の火のようだった。これまでもこれから、有島の四季は変わらず巡り、訪れる人を色とりどりに迎えるのだろう。

(受付・金沢志乃)

職員動向

平成二十四年度

▼着任
長 山口 丈夫 [平成二十四年四月一日
ニセコ町役場町民生活課より]

係 長 淵野 伸隆 [平成二十五年二月二十日
町民学習係長と兼任]

異動

係 長 山口 丈夫 [平成二十五年二月二十日
ニセコ町役場農政課へ]

採用

学芸員(嘱託)
伊藤 大介 [平成二十四年四月一日
平成二十五年三月三十一日]

臨時職員
福本 泰子 [平成二十四年四月一日
平成二十五年三月三十一日]

臨時職員
山口美佐子 [平成二十四年四月一日
平成二十五年三月三十一日]

臨時職員
川埜亜紀子 [平成二十四年四月一日
平成二十四年九月三十日]

平成二十五年年度

▼着任
係 長 樋口 範幸 [平成二十五年四月一日
ニセコ町役場企画環境課より。町民学習係長と兼任]

準職員
春日井雅子 [平成二十五年四月一日
ニセコ町役場町民生活課より]

▼異動
係 長 淵野 伸隆 [平成二十五年四月一日
ニセコ町役場商工観光課へ]

採用
学芸員(嘱託)
伊藤 大介 [平成二十五年四月一日
平成二十六年三月三十一日]

臨時職員
金沢 志乃 [平成二十五年五月一日
平成二十六年三月三十一日]

臨時職員
林 厚子 [平成二十五年四月一日
平成二十五年十一月三十日]

臨時職員
山口美佐子 [平成二十五年四月一日
平成二十五年十一月十五日]

臨時職員
山口美佐子 [平成二十五年四月一日
平成二十五年十一月十五日]

有島記念館

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地
TEL 0136-44-3245 FAX 0136-55-8484
e-mail arishima@town.niseko.lg.jp

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(5月から9月は無休)、年末年始

駐車場 自家用車用約30台・大型バス用約10台

常設展観覧料

一般500円、高校生100円、年間入館券(発行年度内有効)大人800円、高校生200円
10名以上の団体は400円。中学生以下とニセコ町在住の65歳以上は無料。

交通アクセス

自家用車 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
JR ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km.)、タクシー5分
バス 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

